

『社会と倫理』総目次

『現代社会における技術と倫理』

第一号（一九八五年）

- 「現代社会における技術と倫理」 阿南成一
- 「科学技術の発展と社会倫理」 松山昌司
- 「近代産業技術とその社会倫理的帰結―新しい技術革新によせて―」 野尻武敏
- 「技術と倫理―J・S・ミルの停止状態の思想に関する一考察―」 森 茂也
- 「現代社会における「現代企業」の意義」 細井 卓
- 「高度情報社会における産業社会の変貌と日本の進路―「情報技術革命」を中心として―」 家本博一

第二号（一九八六年）

- 「技術と倫理の接点」 阿南成一
- 「現代社会における技術と倫理―科学・技術は現代社会において倫理・規律・価値判断の基準となるのか―」 垣花秀武（コメント…卜部小十郎）
- 「技術社会の福音化を目指して―技術革新の社会的インパクト―」 谷村秀彦（コメント…佐々波秀彦）

- 「現代社会における科学技術と倫理―科学技術のインパクト―」 吉田裕（コメント…松山昌司）

- 寄稿  
「マーシャル経済学の倫理的性格」 橋本昭一
- 翻訳  
「自然科学の真理と宗教的真理」 ヴェルナー・ハイゼンベルク（櫻井健吾訳）

第三号（一九八七年）

- 「ホモ・テクノロジーと技術倫理」 中埜 肇
- 「技術倫理管見」 阿南成一
- 「情報化社会の進展と情報倫理」 前川良博（コメント…本告光男）
- 「技術を生かす力としての労働」 猪木武徳

- 「現代社会と「状況倫理」」 家本博一
- 講演  
「現代技術と未来社会―共通するものは？」

- ローター・シュナイダー（阿南成一訳）
- 翻訳  
「労働と復活―それらの相互関係を求めて―」

第四号（一九八八年）

- はしがき 阿南成一
- シンポジウム  
「著作権の法理」 阿南成一
- 「著作権についての覚書―習慣論の立場から―」 山田 秀
- 「著作権意識と法制度」 阿部浩二
- 「芸能実演家の著作権意識」 小泉 博
- 質疑応答  
「著作権意識をめぐる諸問題」 佐野文一郎
- 「ビデオ海賊版の実情・背景・対策」 亀井寿三郎
- シンポジウム  
アンケート調査  
「個人の録音機や録画機の利用状況と著作権意識」

識に関するアンケート調査」 社会倫理研究  
所「著作権意識」調査グループ  
資料

第五号（一九九〇年）

「技術と倫理―著作権意識をめぐって」 阿南成一  
「韓国における改正著作権法の内容と問題点」  
韓 勝憲（尹 龍澤訳）  
「著作物の複製（コピー印刷、録音、録画）に  
関する複製機器の利用状況、著作権制度に関  
する知識、著作権意識のクロス集計」  
家本博一

第六号（一九九一年）

シンポジウム…技術と倫理  
第一報告…「産業技術の革新と人間」 野尻武敏  
第二報告…「新しい時代の技術の課題」  
村上陽一郎  
第三報告…「エコ・エティカについて」  
今道友信  
第一報告への特定質問 松山昌司  
第二報告への特定質問 卜部小十郎

第三報告への特定質問 阿南成一  
一般討論  
論説  
「技術と倫理―ホモ・ウテンス・テクノロジアーにつ  
いて―」 阿南成一  
「現代社会主義」と「一九八九年東欧民主革命」  
―「ポーランド問題」を中心として― 家本博一

『社会倫理研究』 第一号（一九九二年）

「カトリック社会論の課題（その二）」  
阿南成一  
「社会回勅と社会体制―レーラム・ノヴァルム  
―一〇〇年―」 野尻武敏  
『レーラム・ノヴァルム』刊行の意義―社会回  
勅の二〇〇年を振り返って― 橋本昭一  
「社会回勅『チェンテジムス・アンヌス』と  
「一九八九年東欧革命」」 家本博一  
〈補遺「ポーランドのカトリック教会」 家本博一〉  
『百周年回勅』の今日的意義―法哲学的観点から  
山田 秀

『社会倫理研究』 第二号（一九九三年）

「女性と高等教育―十九世紀イギリスの展開―」  
橋本昭一  
「脱社会主義」改革の基本性格と問題性―ポー  
ランド「一九九〇年経済改革」に関して―  
家本博一  
〈補遺1 一九九〇年―一九九二年における主要経済実  
績 補遺2 一九九〇年経済改革―への総合評価  
家本博一〉  
『百周年回勅』の今日的意義―法哲学的観点から  
山田 秀  
平成四年度（一九九二年度）活動報告

『社会倫理研究』 第三号（一九九四年）

「イスラムの社会倫理とキリスト教」  
久山宗彦  
「脱社会主義」過程での政教関係―ポーランド  
の「一九九三年政教条約」― 家本博一  
資料  
「一九九三年政教条約」―『宗教組織と宗教教育に  
関するポーランド共和国とバチカン市国の国家条  
約』― (家本博一訳)

書評

家本博一著『ポーランド「脱社会主義」への道

―体制内改革から体制転換へ―

田口雅弘

Radicals versus Gradualists: Controversies around

Systemic Transformation in Poland in the

1990s Aleksander Lukaszewicz

European Union or European Fortress: some

Thoughts on the European Integration

Perspectives Aleksander Lukaszewicz

『社会倫理研究』第四号（一九九六年）

「カトリック社会理論における自然法の意義―

カトリック社会理論入門―

山田 秀

Some Ethical Problems of the Systemic

Transformation in Eastern Europe: A Way

from Pseudo-Socialism to Pseudo-Capitalism

Hiroichi Iyemoto

Socio-Ethical Roles of the Catholic Church under the

Radical Changes in Poland: Social Integration

and Social Conflict Mediation Hiroichi

Iyemoto

平成五年度（一九九三年度）活動報告

平成六年度（一九九四年度）活動報告

平成七年度（一九九五年度）活動報告

『社会と倫理』第五号（一九九八年）

論説

「反省における社会倫理学」

高橋広次

「発展する共同善と正義―動態的自然法論の二素描

―

山田 秀

「ケテラーの社会主義批判―一八七七年の遺稿

ノート―

桜井健吾

時評論説

「アジアの経済危機と文明の問題」

野田宣雄

学界展望

「ジョージタウン大学ケネディ倫理学研究所紹

介」

土田友章

「第四回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジ

ウムに参加して」

山田 秀

「メンヒェングラートバッハのカトリック社会

科学中央研究所を訪ねて」

高橋広次

社会倫理の基礎

はじめに

「社会倫理学」

ヴァイルヘルム・コルフ（高橋広次訳）

「自然法」 オトフリート・ヘッフエ、クラウ

ス・デマー、アレクサンダー・ホラーバツ  
ハ（山田 秀訳）

「カトリック社会論」

オスヴァルト・フォン・ネルブロイニング

（桜井健吾訳）

「人権」アレクサンダー・ホラーバツハ、デ

アハルト・ルーフ、ヨヘン・フローヴァイン、

ヴォルフガング・フーバー（高橋広次訳）

「人間の尊厳」

クリステイアン・シュタルク（桜井健吾訳）

社会倫理研究所活動報告

高橋広次

編集後記

桜井健吾・山田 秀

『社会と倫理』第六号（一九九九年）

論説

「未来世代への責任と種の法理」

高橋広次

「生命への畏敬と教育の根源―林竹二博士の人と

教育哲学―

山田 秀

「アダム・ミュラーによる国家・経済の「神学

的」把握」

原田哲史

時評論説

「欧州統合とドイツ―近刊二著の紹介を中心に―」

野田宣雄

- 「科学技術と市民―佐伯啓思『市民』とは誰か」を  
読む」 小林傳司
- 「キレイやすい現代人考―成熟のための時間」  
中矢俊博
- 学界展望  
「メンヘングラートバッハ市立図書館」カト  
リック国民協会文庫」探訪 増田正勝
- 社会倫理の基礎  
はじめに
- 「労働者から経済市民へ―生産資本への参加」  
ローター・ロース (増田正勝訳)
- 「フランス革命とカトリック教徒」  
ハンス・マイアー (桜井健吾訳)
- 「人間のはじまり―遺伝子工学と生命倫理学の諸問  
題」  
クレメンス・ブロイアー (高橋広次訳)
- 「今日における教会の社会的使命について―そ  
の見過しと困難さ」  
ウイルヘルム・シェツラー (久松英二訳)
- 編集後記 山田 秀

『社会と倫理』第七号 (一九九九年)

- 特集 大学教育の倫理  
「シンポジウムと講演」開催にあたって  
高橋広次
- 「大学教育の倫理―科学・技術の立場から」  
村上陽一郎
- 「対話的教育？」  
大森正樹
- 「大衆社会における大学教育」  
高橋広次
- 「大学教員の倫理とファカルティ・デイベロッ  
プメント―大学教育への意味と意義」  
川嶋太津夫
- 「学生による授業評価」の効果と限界」  
林 雅代
- 「専門家と大学教育―私語をするのは誰か」  
小林傳司
- 「「よろず相談窓口」から見える学生」  
原田和子
- 「大学教育と青年の心的諸問題」  
長谷川雅雄
- 「大学・教師・学生をめぐる関係―今後の議論の  
ため素材として」  
丸山雅夫
- 時評論説  
「いま親育てに何が欠けているか―三つ子の魂百  
まで」  
泉 ひさ

学界展望

- 「第六回「倫理への勇氣」会議に参加して」  
山田 秀
- 社会倫理の基礎  
はじめに
- 「「信仰の自由」のカトリック宗教神学的考察」  
宮川俊行
- 「キリスト教徒の課題としての宗教の自由」  
ベッケンフェルデ (桜井健吾訳)
- 「教会と国家の緊張関係のなかの宗教の自由」  
ベッケンフェルデ (桜井健吾訳)
- 「国家と宗教」  
ヨーゼフ・リストル (文字 浩訳)
- 「家族の再発見」  
アントン・ラウシャ― (高橋広次訳)
- 活動報告  
高橋広次
- 編集後記 桜井健吾
- 『社会と倫理』第八号 (二〇〇〇年)
- 特集 キリスト教社会論  
「キリスト教社会論」  
アントン・ラウシャ― (桜井健吾訳)
- 「十九世紀のカトリック社会哲学」

- アントン・ラウシャー（高橋広次訳）  
 「所有制の自然的基礎」 野尻武敏  
 「経営的パートナーシップと社会的カトリシズム」 増田正勝  
 「ナチスのユダヤ人迫害とプロテスタント教会」 河島幸夫  
 時評論説  
 「晩近遺伝子議論の一素描」 高橋広次  
 社会倫理の基礎  
 はじめに  
 「試練に立つ社会国家―連帯性と補完性の相克―」  
 ローター・ロース（島本美智男訳）  
 編集後記 山田 秀
- 『社会と倫理』第九号（二〇〇〇年）  
 特集 現代社会とキリスト教社会論  
 「シンポジウム開催にあたって」 高橋広次  
 「政治権力と道徳―マイネツケ、ヴェーバー、ブルクハルトを手がかりに―」 野田宣雄  
 「市場経済モデルの役割とその限界」 猪木武徳  
 「スペインにおける世俗化の問題」 ホセ・ヨンパルト
- 「ラテンアメリカにおけるカトリック教会と労働運動」 松下 洋  
 「日本の会社と経営倫理」 山田經三  
 「コメント 政治、社会、倫理―法哲学の立場から―」 山田 秀  
 「コメント 近代世界における社会倫理の可能性について」 桜井健吾  
 時評論説  
 「チベット・新疆ウイグル・台湾―伝統的中華帝国の国境意識から―」 三浦太郎  
 社会倫理の基礎  
 「社会回勅の百年」  
 アントン・ラウシャー（桜井健吾訳）  
 『新しい課題』そのメッセージと反響  
 ローター・ロース（高橋広次訳）  
 「人格性、連帯、補完性」  
 アントン・ラウシャー（山田 秀訳）  
 書評  
 増田正勝著『キリスト教経営思想―近代経営体制とドイツ・カトリシズム―』 桜井健吾  
 活動報告 高橋広次  
 編集後記 桜井健吾
- 『社会と倫理』第十号（二〇〇一年）  
 論説  
 「「信教の自由」のトマス主義社会倫理学的考察」 宮川俊行  
 「アルトゥール・ウッツの経済秩序倫理学」 島本美智男  
 「経営倫理―学問としての過去・現在・未来―」 山田經三  
 「大学教育の倫理―人文学の視点から―」 土田友章  
 時評論説  
 「生活協同組合の位置と役割―コップこうへの実践から―」 野尻武敏  
 「マックス・ヴェーバーと「職業の崩壊」」 野田宣雄  
 「多文化主義MC運動の意義と無意義―差別反対から真理の復権へ―」 澤田昭夫  
 社会倫理の基礎  
 「ドイツ・カトリック国民協会 一八九〇年―一九三三年―社会的正義をめざして―」 ホルストヴァルター・ハイッツァー  
 「宗教、芸術、文化」 （増田正勝訳）

ハンス・マイアー (桜井健吾訳)  
「社会秩序の大憲章」『レールム・ノヴァールム』  
九十周年」

ヨハネス・メスナー (山田 秀訳)  
編集後記 山田 秀

『社会と倫理』第十一・十二合併号

(二〇〇一年)

特集 家族と世代間倫理

「シンポジウム開催にあたって―その趣旨と理解  
のために―」 高橋広次  
「家族とグロバリズム―親孝行について―」  
山口 勉彦

「憲法問題としての家族―解放の論理から統合の論  
理へ―」 八木秀次  
「シンポジウムを補って」 高橋広次

「自然法と家族―シンポジウム「家族と世代間倫理」  
コメント―」 山田 秀

「国家と家族と個人」 島本美智男

「シンポジウムへの特別寄稿」

「高齢社会を迎えて―介護保険の理念と現実―」

難波洋三

「結婚・離婚・一夫多妻に関するイスラム倫理

のコプト共同体への影響」 久山宗彦

「リトルトンに至る所にある―新しい心理学的研  
究は昂揚した自己価値感情が暴力態勢を危険なま  
でに高めることを示している―」

ミヒヤエル・ヴェーバー (高橋広次訳)

倫理学講義

「山田晶先生の「倫理学講義」連載について」

桜井健吾

「キリスト教的愛について」 山田 晶

社会倫理の基礎

「社会回勅」 (桜井健吾、大橋聡訳)

アントン・ラウシャー

「20世紀のカトリック社会学」

アントン・ラウシャー (原田哲史訳)

「キリスト教民主主義の開拓者ヴィントホルス  
ト (一八二二年―一八九一年)」

ルドルフ・モルザイ (増田正勝訳)

「ビジネス・エシックス」

ジョン・ランガン (橋本昭一訳)

社会倫理研究所活動報告 高橋広次

編集後記 高橋広次

『社会と倫理』第十三号 (二〇〇二年)

特集 メスナー自然法思想

「ヨハネス・メスナーとその法・国家論の意義」

ヘルベルト・シャンベック (山田 秀訳)

「社会的ヒューマニズム―社会転換期における基本  
価値と原理―」

ルドルフ・ヴァイラー (山田 秀訳)

「オントロギーとメスナー倫理学 (一)」

水波 朗

「自然法と経済倫理」

野尻武敏

特集 社会倫理の伝統と刷新

「シンポジウム開催に当たって」 山田 秀

「IT革命とグロバリゼーションの社会倫理―  
科学者がみる21世紀―」 小柳義夫

「社会回勅の二一〇年」 橋本昭一

「経営倫理の新しい展開」 増田正勝

「所有倫理の新しい展開」 島本美智男

「家族倫理の新しい展開―高齢社会における倫理と  
政策―」 高橋広次

「政治倫理の新しい展開―国民国家と共同善を中心  
に―」 山田 秀

「十九世紀的精神の継承と二十世紀的課題への  
対応―諸報告へのコメント―」 原田哲史

論説

「グローバル化と補完性の原理」

マイケル・シーゲル

時評論説

「クロイン羊ドリーの誕生とその後」

「近代国家没落論をめぐって」

倫理学講義

「アガベとエロス」

社会倫理研究所活動報告

編集後記

『社会と倫理』第十四号（二〇〇二年）

論説

「家族と子どもの社会倫理―少年諸法制を考え直すための基盤として―」

「オントロギーとメスナー倫理学（二）―アウグスティヌスについて―」

「トマス・アキナスと〈意味論に根差した〉議論」

「科学技術者の美德―工学倫理と徳倫理―」

（加藤泰史、高畑祐人訳）

（ヴォルフガング・エアトル

（加藤泰史、高畑祐人訳）

（加藤泰史、高畑祐人訳）

（加藤泰史、高畑祐人訳）

（加藤泰史、高畑祐人訳）

（加藤泰史、高畑祐人訳）

（加藤泰史、高畑祐人訳）

時評論説

「発展途上国への融資とカトリックの利子に関する伝統」

マイケル・シーゲル

社会倫理の基礎

「倫理・ビジネス・経済」

「全体経済的課題としての財産形成」

「アロイス・オーベルハウザー（増田正勝訳）

（増田正勝訳）

（増田正勝訳）

（増田正勝訳）

『社会と倫理』第十五号（二〇〇三年）

「セミナー開催の挨拶」

「法による和解の約束―南アフリカの真実和解委員会」

「エミリオス・クリストドゥリデイス

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

（宇佐美誠訳）

「南アフリカTRCと責任概念―クリストドゥリデイス教授の議論をうけて―」

「不処罰と共同体―日本の歴史的文脈から見た南アフリカのTRC―」

「真実和解委員会の成功と失敗―再応答―」

「オントロギーとメスナー倫理学（二）―トマス・アキナスについて―」

「世界の意味」

「社会倫理の基礎

「ベルンハルト・ブートル（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

（山田 秀訳）

『社会と倫理』第十六号(二〇〇四年)

論説

「応用倫理学論序説―担い手、方法、名宛人」

奥田太郎

講演

「教養主義の盛衰」

竹内 洋

「歴史の真実」と「ネイション・ステイト」

別所良美

倫理学講義

「行為と能力―トマス『神学大全』第一部七八問―

三項、第二部の第一問一項を中心に―」

山田 晶

社会倫理の基礎

「カトリック社会理論とは何か」

アルトゥル・ウッツ (山田 秀訳)

追悼

「真正トミスト、トマス水波朗先生のご逝去を悼む」

山田 秀

編集後記

山田 秀・奥田太郎

『社会と倫理』第十七号(二〇〇四年)

特集 生命倫理

「先端医療技術をめぐる生命倫理・法と「人間の尊厳」―生命の発生の周辺を中心として―」

甲斐克則

「報道されていないふたつの出生前診断問題」と「不可視化する出生前診断」

玉井真理子

「人格主義の生命倫理学とヒト胚の尊厳について」

秋葉悦子

「抽象 abstractio 理論についての管見―秋葉先生のご報告に接して―」

山田 秀

「優生へのまなざし―台湾における生殖技術の実践を例として―」

張 瓊方

特別寄稿論説

「イタリアの「生殖補助医療に関する法律」(二〇〇四年二月十九日の法律第四〇号)・・・

ヒト胚の人格と法的主体性の承認―総合科

学技術会議生命倫理専門調査会最終報告書「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」への異議―」

秋葉悦子

論説

「ヒト初期胚の道徳的身分を巡って―トマス主義

倫理学的考察―」

宮川俊行

「人の胚」の倫理的地位―カトリック倫理神学の立場から―」

浜口吉隆

「技術者倫理を捉えなおす―公衆の安全・健康・福利のために何をすべきか―」

杉原桂太

社会倫理の基礎

「生命の不可侵性―自己決定の限界―」

ギュンター・ベルトナー (山田 秀訳)

「自己決定への疑問―自殺する権利とか望んでいるから殺害してもらおう権利とか存在するものだろうか?―」

エンリケ・H・プラート (山田 秀訳)

「医療現場から見た死の介添えと緩和医療」

ヨハネス・ボネリ (山田 秀訳)

「良心―倫理的判断能力ならびに人格的責任の源泉―」

エーベルハルト・シヨッケンホフ

活動報告

小林傳司

編集後記

奥田太郎・山田 秀

『社会と倫理』第十八号(二〇〇五年)

特集 公正と平和を求める研究プロジェクト

「趣旨説明」

マイケル・シーゲル



「二十一世紀の国際社会と国連―武力行使を巡る問題を中心として―」  
山田哲也

「対テロ戦争とアジアの市民社会―暴力の連鎖を解くのは誰か?」  
竹中千春

「アメリカが保守化した背景およびその外交的インプリケーション」  
中山俊宏

「グローバル危機の時代における「人間の安全保障」をめざして―ジェンダー・多文化共生・都市ネットワークの観点から―」  
羽後静子

論説

「ヨハネス・メスナーの生涯と著作」

山田 秀

倫理学講義

「人間の行為と人間の行為」

山田 晶

書評

松田純著『遺伝子技術の進展と人間の未来―ド

イツ生命環境倫理学に学ぶ―』

山田 秀

マイケル・シーゲル著『福音と現代―宣教学の視点から―』

山崎裕子

活動報告

小林傳司

編集後記

奥田太郎・山田 秀

『社会と倫理』第十九号（二〇〇六年）

特集1 ジョン・ロールズの政治哲学

「ロールズの政治哲学とカトリック社会教説―ドイツにおける議論に着目して―」  
ハンス・ヨアヒム・テュルク

（山田 秀訳）  
「政治的リベラリズムとカント的共和主義の対話―ロールズの政治哲学の課題―」  
神原和宏

「理由の復権―公共的理性に基づく正当化―」  
福間 聡

「ロールズ正義論と伝統的自然法」  
山田 秀

論説

「着床前診断のトマス主義倫理学的考察」

宮川俊行

特集2 人間の尊厳

「ノイマン教授懇話会に寄せて」

高橋広次

「人間の尊厳という原理」

ウルフリット・ノイマン（井川昭弘訳）

「ノイマン教授「人間の尊厳という原理」への一コメント」

高橋広次

「ノイマン先生ご報告に対するコメント」

井川昭弘

「科学的合理性と社会的合理性の間に立つ人間

の尊厳」

平田丈人

「人間の尊厳についての自然法論的考察―ノイマン論文をめぐって―」  
山田 秀

「人間の尊厳と人間の生命―ノイマン教授「人間の尊厳という原理」に対してのコメント―」  
西野基継

小泉信三賞受賞記念祝賀懇話会

「日常の中の死 尊厳ある死」―福岡佐織さん小泉信三賞受賞記念祝賀懇話会を開催して―」  
林 雅代

「在宅介護だからできたこと、在宅介護でもできなかつたこと」  
福岡佐織

入賞論文「在宅介護―最高の別れ―」

社会倫理の基礎

「尊厳の尊重と利益の保護」

ギュンター・ペルトナー（山田 秀訳）

書評

大庭健著『責任 つてなに?』

佐々木拓

秋葉悦子訳著『ヴァチカン・アカデミーの生命倫理』

山田 秀

活動報告

編集後記

澤木勝茂  
奥田太郎・山田 秀